

『ジェロントロジー』とは・・・

『加齢発達学』 『人は生涯学習します』

① 概説

「ジェロントロジー」とは、身体的な低下に捉われることなく、エイジングを理解する事を通じ、個人の生き甲斐を創出するとともに、個人の生き甲斐が尊重される社会づくりを提言する学問です。

「ジェロントロジー」= 「加齢学」
エイジング

「生き甲斐の科学」・・・ 生き甲斐寿命を延ばす研究

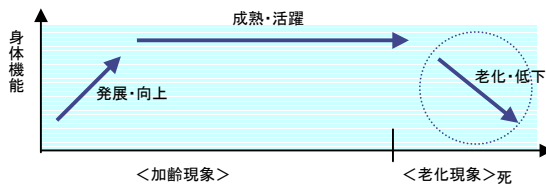
これまでのエイジング（加齢）研究 ＜「身体」としてのエイジング研究＞

- 「生物学的視点」が中心となった加齢研究
身体的衰えといったマイナス面 (ex. 年齢とともに視力は低下等) が結果的にクローズアップされ、それへの対応が中心となる傾向

生物学

- 加齢とともに身体機能は必然的に老化・低下するものとして、その原因を追求

【ご参考】生物学的老化学説
「遺伝子プログラム説」「擦り切れ説」「エラー説」
「活性化酸素説」等



生物学的視点における研究をメインとし、
周辺分野において個々独立して研究

社会学

経済学

心理学

〇〇学

ジェロントロジーでは・・・ ＜「人間」としてのエイジング研究＞

- QOL (=生活の質: Quality of Life) の向上を中心に据えた加齢研究
「生物学的視点」(マイナス面を正當に評価)、「心理学的視点」(プラス面を積極的に評価)の両面で人間としての価値を評価し、「社会心理学的視点」「社会学的視点」との相関も踏まえQOLの向上を目指す

生物学的視点

- 加齢による身体機能低下の
原因と対処方法を研究

Ex. 「病気や障害の治療方法」
「病気や障害の予防策」
「病気や障害の補填方法」

心理学的視点

- 心ころと知能を研究

Ex. 「感覚」「知覚」
「心ころとからだの調和」
「人間発達」「パーソナリティ」
「精神障害」「適応能力」

QOL向上に向けた相関関係を研究

社会心理学的視点

- 個人と周囲の相互関係の研究

Ex. 「考え方」「態度」
「価値感」「社会的役割」
「セーフティ」
「年齢による変化への対応」

社会学的視点

- 高齢者における社会の仕組
や個人に及ぼす影響の研究

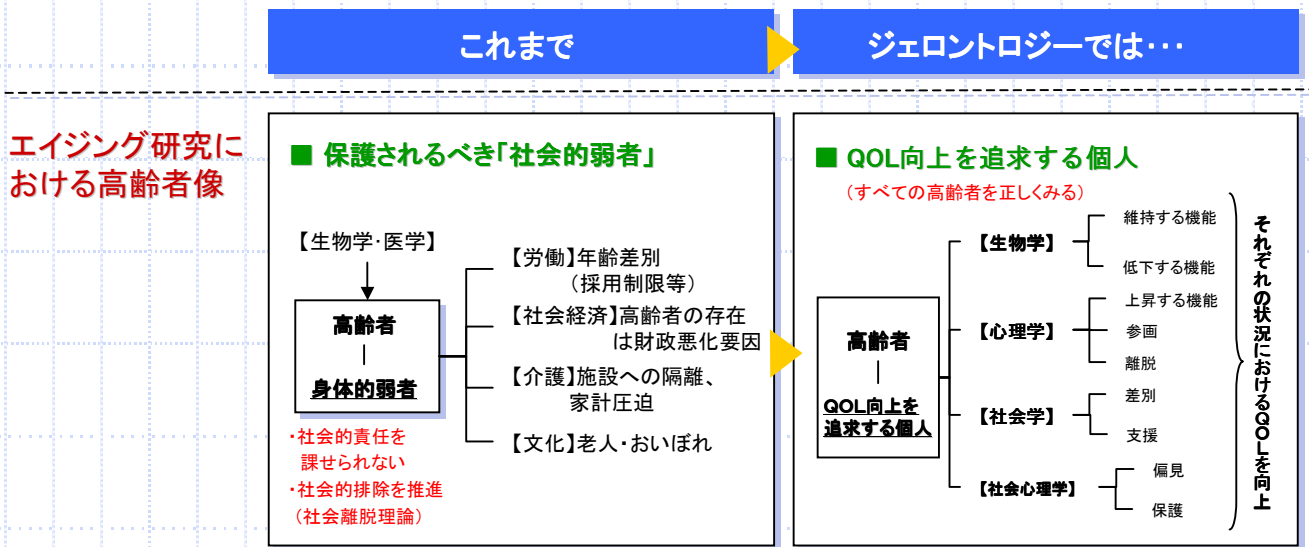
Ex. 「労働」「経済」「教育」
「医療」「介護」
「社会保障」

『ジェロントロジー』とは・・・

『加齢発達学』

② 具体的事例

これまでの高齢者像は、主に身体的な衰退に焦点をあて「社会的弱者」として捉えられていましたが、「ジェロントロジー」では、それぞれの状況に応じた生き甲斐創出・活躍場面の創出を目指す「QOL向上を追求する個人」として捉えられております。



具体的事例1

入院高齢患者で施設入所の可能性が高い。123名を対象に1年後の状況を分析
～1984年UCLA病院～

ジェロントロジーを学んでいない医療スタッフによるサービス

48.3%	死亡した人の割合	23.8%
53.3%	退院後に帰宅した人の割合	73.0%
30.0%	退院後に施設に入所した人の割合	12.7%
50.0%	再入院した人の割合	34.9%
55.7日	介護施設入所期間の平均日数	25.8日
46.7%	介護施設を利用した人の割合	26.9%
25.4%	日常生活動作能力が向上した人の割合	48.4%
30.5%	機能的日常生活動作能力が向上した人の割合	46.8%
24.1%	幸福感が増した人の割合	42.4%
22.4%	精神状態が良くなった人の割合	35.6%
\$27826	医療介護コスト	\$22597

ジェロントロジーを学んだ医療スタッフによるサービス

具体的事例2

コールセンターにおける解約防止話法の構築
～米国HF社～

■高齢者からの自動車保険解約申し出に対して
高齢であるため、解約をすすめる

行動範囲を伺い、何時であれば車の通行量も少ないので安全である等、周辺情報も提供する
→解約防止に繋がる

『ジェロントロジー』とは・・・

③ エイジングにおける3つの段階

エイジングには、3つの段階があります。つまり、身体能力の低下、フリーラジカル制御機能の低下、そして相互に関連して起こる現象です。具体的には、日常生活において、運動能力の低下、感覚（五感）の鈍化、姿勢や動作・刺激に対する反応の鈍化といった現象が起こります。姿勢・動作・刺激に対する反応は、大よそ50歳くらいから筋力が衰え、70歳位ではピーク時の15%、80歳位になるとピーク時に比べ40%低下すると言われております。

ジェロントロジースポーツ研究所では、スポーツを楽しみながら筋力と体力を維持し、結果としてエイジングの3つの段階の現象を遅らせていくことを目的としています。

